

【1.体制】

2024年度は7人体制での運用となった。継続して検査室内でのローテーションを行い、全体でのカバーリング体制を継続し、有給休暇取得や病欠者発生時などにはフォローし業務を遂行した。1名が11月初旬から育休明けにて復職し8人体制に戻った。

【2.取組内容と実績】

(1) 外来の朝一採血業務への参入を開始した。週2～3日だが外来繁忙時には可能な限りフォローに入っている。

前年同様に出前・健康講座は要望がなく、検査室からの講座は開催されなかった。新人看護師を中心としたミニレクチャーは、コロナ禍以前の状況に戻り通常開催となった。しかしスタッフの集まりが悪く開催できない事もあった。

昨年よりは減少したが、2024年度もCOVID-19のクラスターが発生し、LAMP検査を行った。しかし前年度の20%以下に減少し、9月以降は基本的にLAMP法を中止し、抗原定性法にて対応した。

(2) 検体検査の件数は、前年度よりわずかに減少した(COVID-19検査件数減少および整形外科医退職のため)。

(3) 心エコーおよび腹部エコーは4名体制、血管エコーは3名体制となった。さらに他の領域も充実した体制を構築していく必要がある。生理検査の件数は前年度に対し、360件ほど微増している。新たに9月から心音図検査を開始し、半年で266件実施した。

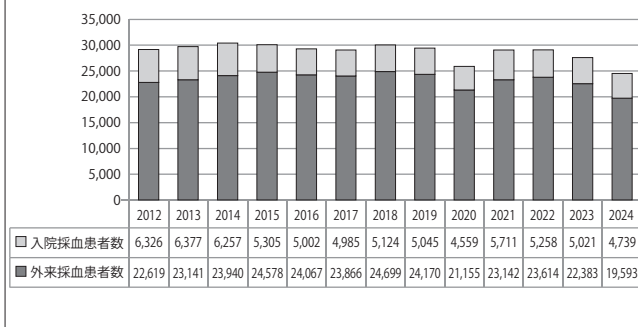
(4) 熊本病院から、血圧脈波検査装置および血液ガス分析装置の譲渡があり、中古だが今までより新しい機器で運用できている(今後も譲渡して頂ける機器が無い情報収集を継続する)。

(5) 2月に熊本病院検査室への研修を予定していたが、熊本病院側のクラスターや、インフルエンザの蔓延によって延期となった。

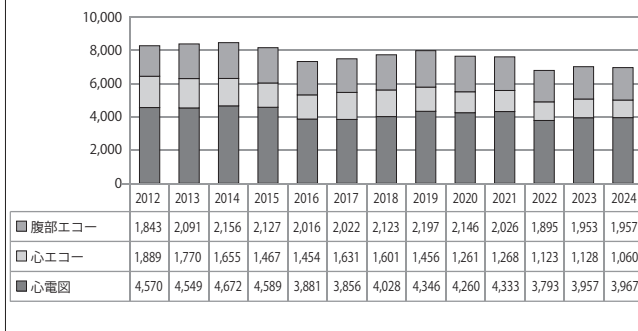
【3.今後の課題】

- (1) 役職者の登用が急務であるがこの数年来進展していない。
- (2) 超音波診断装置は2025年度中旬以降に更新予定となった。
- (3) 熊本病院検査室への研修を再開する(2025年9月を予定)

採血患者数年度別推移



主な生理検査年度別推移



病理・細菌検査年度別推移

